

令和6年度 清水高校熱中症対策について

今年度における清水高校の熱中症対策について、教育活動は原則として「熱中症予防運動指針」に基づいて対応を行います。

暑さ指数 (WBGT)	湿球 温度	乾球 温度	注意すべき 生活活動の 目安	日常生活に おける注意 事項	熱中症予防運動指針	本校の対応
31℃ 以上	27℃ 以上	35℃ 以上	全ての生活活動で起こる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。	熱中症予防運動指針に基づいて対応する。
28～ 31℃	24～ 27℃	31～ 35℃		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	厳重警戒（激しい運動は中止） 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩を取り水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人(注4)は運動を軽減または中止。	
25～ 28℃	21～ 24℃	28～ 31℃	中等度以上の生活活動で起こる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。	警戒（積極的に休憩） 熱中症の危険性が増すので、積極的に休憩を取り適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩を取る。	
21～ 25℃	18～ 21℃	24～ 28℃	強い生活活動で起こる危険性	一般には危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意（積極的に水分補給） 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	
21℃ 以下	18℃ 以下	24℃ 以下			ほぼ安全（適宜水分補給） 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	

また、熱中症警戒アラートの発表時には、下記のように対応します。

暑さ指数 (WBGT)	対策	詳細	担当者
熱中症警戒アラート発表時	自校の所在地又は近隣の地域における暑さ指数を確認	- 環境省「熱中症予防情報サイト」の確認 - 暑さ指数（WBGT）計による測定	教頭 各担当者
	対応の検討（及び決定）	- 臨時休業、短縮日課等 - 座学・体育・実習・部活動・行事 - 登下校 - 保護者や児童生徒への周知方法 - 市町村教育委員会や近隣校との情報共有（登下校時の安全が確保でき、空調設備が整備されているなど、暑熱環境の危険性を低くできる場合には、状況に応じて判断）	検討チーム （管理職・総務部長・生徒指導部長・保健主事・養護教諭）
	必要に応じて児童生徒や保護者に通知	児童生徒：Classroom 保護者：安心メール	教頭